

天理参考館創立90周年特別展「スポーツの歴史と文化」はまもなく閉幕を迎える。引き続き、展示資料のなかから「走る」にまつわるものを紹介したい。



図1 金製メダリオン ギリシア
紀元前5～紀元前2世紀頃 径6.8cm

展示室のなかでも、一際目を引くのが金製メダリオン(図1)であろう。紀元前のものとは思えない金色の輝きを今も放つ。現代の競技大会でも、優勝者にメダルやトロフィーが、その榮譽を称えて与えられる。これは古代ギリシアの副葬品だが、一体いかなる英雄の

「勇者のしるし」なのか興味は尽きない。このメダリオンに描かれているのが松明を持って走る半神半人のヘラクレスの姿である。これは「ヘラクレスの十二功業のうちの1つ『レルネのヒュドラ』」を表現していると思われる。ヒュドラはレルネの沼に住む9つの首をもつ蛇で猛毒を有していた。ヘラクレスが棍棒で頭をたたき落としても、その傷口から2つの首が生えてきて取拾がつかない。ヒュドラの傷口を松明の炎で焼いて生えるのを防いで退治した。松明を持った姿はその功業を表していると思われる。2世紀ギリシアの地理学者パウサニアスによると、オリンピア祭を始めたのがヘラクレスであった。徒競走をしてその勝者にはオリーブ樹の若枝で冠を編んで与えたのもヘラクレスであった⁽¹⁾。

オリンピア祭を始めたときとされるヘラクレスは、自ら討ち果たしたネメアーの獅子の毛皮を肩にかけただけの全裸で走る。前回紹介したように、古代オリンピックに参加する選手は全員一糸まとわぬ全裸の男性であり、神に愛される美しい肉体を誇示したことをヘラクレスは体現している。筋肉隆々の、腹筋の割れた七頭身の肉体は確かに美しい。奇しくも「最初のオリュンピア祭は前776年で、徒競走のみがおこなわれた⁽²⁾」。そうであるならば、このヘラクレスの走法は理想型であり、当時の人々の基本であったろう。右手右足と左手左足を同時に前へ送り出す、いわゆる「なんば走り」である。

「なんば」は「難場」とも表記され、山歩きなど難所の坂道で右膝に右手をかけ、勢いをつけて登っていく場面を想起していただくとわかりやすい。踏ん張れるのである。「なんば走り」、なかんずく「なんば歩き」は稲作農耕民の作業形態から発生した歩行法と言われている。鍬を使う場合、右手で鍬を振り上げて右足で踏み込む。餅をつくときも同様で、綱引きなど、要は力を出すときに有効である。相撲の右四つや左四つは力士が一番力を出しやすい組み手であ

り、柔道でも右手・右足前の組み手を右自然体と呼び、左手・左足前の組み手は左自然体である。力を興起するだけではない。余計なエネルギーを消費しなくて済む。忍者の走法は前に倒れそうな強い前傾姿勢を保ったまま次々に足を前に送り出す、これも小走りの「なんば走り」だが、ほとんど空中に浮かない早足歩きの延長線上にある走法なため、疲労も少なく距離を伸ばせるという。江戸時代まで日本人はこの歩き方(走り方)であった。

西洋での走法が古代ギリシアからどのように変容したか定かでないが、半人ヘラクレス神の走法は、近代になって「女神」の台頭によって塗り替えられた。ドラクロワが1830年に描いた「民衆を導く自由の女神」では、民衆の先頭に立って銃剣付きマスカット銃を左手に、フランス国旗を右手に掲げて走る女神は、もはや「なんば走り」ではない。自由を希求する勇猛果敢な女神の走法には、近代の軍隊の歩行が導入された。銃を持って匍匐前進をする場合や、銃を構えて進むときも「なんば走り」では身体は前に移動できない。腕と足を交互に逆に送り出す歩行法、すなわち右足を前に送り出すときは右腕をうしろに引き、左足を前に送り出すときは左腕をうしろに引くやり方がよしとされるようになったのである。これは下半身と上半身は逆の動きとなる「逆ひねり」の運動であるため、勇ましい女神もドレスの裾が足に巻き付いて走りにくそうには見える。この走法にはエネルギーが必要で、明治以降の日本人にとっては意識と自覚も要求された。それまで一般的だった「なんば走り」は一転して嘲笑の対象となったのである。

図2のおもちゃ絵と称する浮世絵版画に描かれているのは郵便配達夫である。郵便制度は明治4年に創設されたが、配達夫の採用基準は5貫目(18.75kg)の郵便物を担いで4時間に5里(19.6km)を駆けることというから驚きだ。恐るべきは江戸・明治の人の体力だが、ここでの配達夫は「なんば走り」である。近代化した日本で、明治なかばに至っても、体力を消耗しない有効で身近な走法だったにちがいない。

〈図は全て天理参考館蔵品〉

〔参考文献〕

- (1) 『スポーツの歴史と文化—天理大学附属天理参考館創立90周年特別展』、天理大学出版部、2020年、25頁。
(2) 同上、21頁。



図2 新版郵便手遊びづくし
日本 明治25年 大判一枚